

# 第219回 春風狂句

8月号の笠は

「かき氷」「遠い目で」です。

お一人三句以内で7月10日(月)までに  
受付にお出してください。お待ちしております。



選者 国府 良貝

◎ せからしか だんなの 野寝られんと 吉岡 広子

(評釈) 昔は あんま気にならなんだった野が 最近は何ひどなった  
ごたる。うるさかだけじゃなく 時々 息せんごつなるけん  
ますます気になって寝られん。聞いたたら そがん病気もあつて  
だけん 病院にいかせなん。昼間だけならいざ知らず 夜まで  
手ば焼かせらす、ほんなごつ 腹ん立つ。

◎ せからしか バッテン帰ると 淋しかね 合志 タエ子

(評釈) こがんごつば言うとは 男に多かね。孫が来たつちや  
ようと面倒も見らんで 自分の部屋におるくせ おらんごつ  
なつと 淋しかねて言う。女はおる間中 いろいろ仕事の  
増えて忙しかつよ。確かに 可愛かけん 楽しかつばつてん  
帰つたら ホツとした。これ本音ね。

◎ せからしか 酔うた父の 説教は 鳥 藤子

(評釈) だいたい酒のみの話は くだかもんね。同じごつば  
ぐずぐず ぐずぐず 何べんでん言わると たとえよか話でん  
だんだん腹の立つてくる。おふくろが中に入って 上手に話ば  
かわしてくるつとが ありがたかつた。偉ぶつたつちや  
おふくろにや頭の上がらんだつたもんね。女は強し、さすが。

◎ せからしか 隣の犬は よう吠える 杉野 裕志

(評釈) 確かに 犬の鳴き声は せからしか時のあるばつてん  
最近は 幼稚園の遊び声も せからしかて 文句言う人の  
おらすてたい。生活ばしていく上で お互い様でいうごつも  
あつただけん ある程度は 我慢したり 自分の方で工夫したり  
とかするごつが大事じやなかるうか。今の世の中もうちよつと  
寛容にならんと 生活に潤いのなかつなるよ。

◎ 覚えとらん 言葉掛けられ とげ顔 前田 うめか

(評釈) 年とつてきて 一番困つとが 人の名前ば思い出さんごつ。  
どつかで見たごつのあるて思つたつちや わからん。やたら  
妙な返事ばして 失礼になつといかんと思て 聞こえんふりば  
しとつたら 昔 仲人ばした娘さんのお父上だつた。  
ご無礼しました。

◎ 覚えとらん 卒業写真に 二、三人 お米

(評釈) 確かにクラスに何人か あんま話もしたごつのなか人の  
おつたよね。同窓会で 同じクラスだつたごつと  
言われても よう覚えとらんごつのある。ただ そがん人に  
限つて 美人だつたりすとよね。みなさん出会いを大切に  
誰とでも仲良くなつておきましよう。

◎ 覚えとらん でも吾が家には 戻つとる 脇田 五典

(評釈) むずかしゆう言つと 逆行性健忘たい。そんな時は  
ちゃんとしつても あとで そんなごつば 忘れてしまつと  
いうやつで 酒のんだ後は ようそがごつがある。ばつてん  
自分が何ばしたか覚えとらんというとは たいが不安よ。  
昔から 酒はのんでも飲まるんな」ていうでしようが。  
みなさん ご用心 ご用心。

たくさんの投稿をありがとうございます。評釈は、  
勝手なイメージで 書かせていただいておりますので、  
お気に召さない場合があるかもしれませぬ。  
お許しください。初めての投稿もお待ちしております。

